

★ まちづくり ★ ニュース



ホームページ

<https://tokiwadai.net/>

263号

2023年11月26日



常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ トルコ航空機のひやり

9月22日、トルコ航空機199便（ボーイング777）が午後10時35分、羽田からイスタンブールに向けて北西の方角に飛び立ちました。通常なら直ぐ右へ旋回して東京湾上に出るところ、なんと直進した結果品川や港区の上空を通過してしまったのです。管制官は東京タワーを気にしてか「障害物！」を連呼し、急上昇を指示しました。大きな事故になる恐れがありました。634mのスカイツリーやタワーマンションが林立するような都心を低空飛行するのは危険過ぎます。一時この飛行機の軌跡が消されてまた復活したのは、国交省の隠蔽かとも。東京新聞だけがwebで報道しました。

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/291204>

○ 国谷裕子大いに語る

第22回いたばし協働市民フォーラム

11月23日大山の文化会館大会議室で、「ダイバーシティ・ジェンダー平等の現在地と未来～多様性尊重で地域・社会はどう変わるか～」と題する講演とシンポジウムがありました。

基調講演をした国谷裕子さん（1993～2016年NHKクロズアップ現代キャスター）はTV時代と変わらぬ滑舌で、様々な現代日本の遅れたジェンダーギャップを指摘してくれました。パネラーとして岸本杉並区長、田中板橋区議会議長、舟山板橋区男女社会参画課長、山根実践女子大学教授がマイクを握りました。

内容はまとめきれませんが、杉並区が実践していることが板橋区ではかけ声ばかり、と言う感じです。なぜ実現できないのか、官僚や議員だけではなく区民の意識が低いのでしょうか。

○ 新手の振り込み詐欺



屋根修理の勧誘にご注意を

TVでも特集していましたが、ここ常盤台でも何件か危なかった例がありました。多くの手口は近所に工事に来ていると言い、たまたまお宅の屋根が雨漏りしそうに壊れているのを見つけたと、なかなか目の届かない屋根の修理につけこみます。被害を受けるのは高齢のひとり暮らしの女性が多いとか。たとえ修理が必要だとしても、出入りか知り合いの業者に頼むからと断れば良いのです。普段から人の出入りや住人の行動を調査しているのかもしれない。

○ 常盤台の「むかしばなし」

時折、常盤台の分譲当時の古い話を漏れ聞くことがあります。その都度こんな話はどこかに書き留めなければと思い、「むかしばなし」シリーズを2006年の62号から2009年114号まで35編掲載しました。

今も人は自分の住む街について好奇心はあはずです。その街の歴史にも。最近また興味深いエピソードを伺ったので少しずつむかしばなしシリーズを続けようと思います。裏面にまずMさんの話を載せました。

○ 写真展開催

ギャラリー服部 (03-5915-2210)

11月23日(木)～12月5日(火)

来館者の多寡は地元の人々の文化に対する関心度の表われです。無料ですし時々見に行きませんか。

むかしばなし(36)

— 運送店の話 —

今ならタクシーやトラックで人の移動とか荷物の運搬をするのですが、昭和十年代の頃は馬や牛が引く荷車が一般的だったのです。

常盤台でも北口駅前に馬や牛を使った運送屋がありました。永山運送さんで、近くの空き地に馬牛を準備していたようです。そのことを覚えていた人にやっとなり巡り会えました。

Mさんがまだ上板橋小学校に通っていたころ、大山の方の子供も友達にいたので、よく遊びに行ったのですが、帰りは常盤台まで歩くのが嫌で、丁度大山から空車で帰る永山運送の荷車に乗せてもらったそうです。条件は牛や馬が道で粗相したときの掃除。車の後ろにホウキとちり取りがぶら下げてあってそれでバケツの中に片付けるのです。馬のはまあまあですが牛のはいやだったなあ、とMさん。なぜなら馬のはころころして扱いやすかったが、牛のはべちゃべちゃして大変だったとか。だから馬車で帰るのが嬉しかったそうです。

永山運送は十台ほどの規模でしたが、前野町近くには石綿運送という店があつて、馬車二台を持っていたそうです。世の中はやがてオート三輪(ダイハツ・クログネ)や軽トラックの時代になり、荷車の時代は終わったのでした。

常盤台は敷地も家も広かったので、空襲で焼け出された親戚が何家族も身を寄せてきました。何とか家が出来て引っ越しして行くのに永山運送の荷馬車に荷物と一緒に乗って行ったのでした。

プラスチックごみの分別

来年四月から始まる

東京二十三区の半数が既に実施しているプラスチックごみの分別が、板橋区でも来年四月から始まるそうです。

十一月二十一日の常盤台地域センターでの説明会に行つて来ました。区民二十五名(男性五名ほど)の参加者でしたが、周知するためにはゴミ出しのハンドブックが十二月から全戸配布されるそうです。

質疑応答で次のような意見が出ました。

・納豆のネバネバやオリブオイルの瓶などの油污れを取るのは大変。徹底されるまでにある程度の期間が要る。

・分別の工夫だけでなく、生産者や小売店などがプラスチックを使わないような工夫も必要では。

・区のゴミ担当者も街中のゴミの状況を見回ってはどうか。

・この分別は採算がとれて区の歳入になるのか。

・プラごみ用のゴミ箱を作らねば。今でも分別が出来ていないので徹底するのは難しい。等々

ごもっともな意見ばかりでしたが、地球温暖化や海洋汚染の被害はまったなしの状況です。何でも可燃ゴミにしてしまうのは楽ですが、紙などもっと分別すべきだと思います。

H・S

常盤台公園のはなづくり

十一月二日、区からの花苗とはなづくりの会が用意したチューリップの球根を植えました。

前日の夜までかかってノッポさんが残っていた前の根を取り除き、耕してくれました。肥料も撒いてありました。

今年は少なめに苗を注文した結果、何も植えていない地面ができたので、ビオラを一〇株ほど補充しました。まだ二〇株か三〇株欲しいところです。

一丁目のバス通り近くのMさんのお家では通りに面していつも花を絶やさず見せてくれます。この間までは風にそよぐコスモスでした。ピンクの濃淡の美しさにカメラを向ける通行人も見かけました。今は色とりどりのパンジーが咲いています。

自動灌水の設備もしてあって綺麗に咲かせておくのは大変だと思います。感謝の意味で通りかけたときに花ガラを摘んであげたいと思ったりしますが、余計なお世話でしょうね。

この街では何軒もの家で、近所や通りがかりの人も楽しめるように植物を世話しています。クリスマスも近くなり、イルミネーションで夜を楽しませてくれる家もあります。心の余裕のある街なのでしょう。

